

## 東北地方の風流山車—岩手県「南部風流山車」を中心に—

高橋 啓

岩手県内には、所謂「南部風流山車」を中心とした豪華絢爛な風流山車の文化が存在する。これらは地域によって多少の差異はありつつも、おおむね同様の形態を保持しつつ伝搬している。このほか、県内外には多様な風流山車の文化が根付いている。

その一方で、これらの文化についての調査は行政や市民有志によって断続的かつ断片的に行われているが、特定のマツリのみを対象にした研究成果が存在するのみであり、網羅的な研究は「南部風流山車の研究」(山屋賢一)が嚆矢となっていた。今回の研究では単に網羅するのみならず、其々の地域における山車の美的・技術的精度や、各々の関係者が有する多様な視点や見解を補足するために、在学 4 年間をかけて岩手県のみならず、東北 6 県・120 ほどのマツリの踏査を実施した。

また、現在では伝統文化全体にいえることではあるが、山車文化全体が急激に衰えているという現状は無視できない。少子高齢化、地方の過疎化を原因とし、これに新型コロナウイルスの流行等が重なり人員不足・予算不足、さらに純粋な山車制作技術などの減退が度々指摘されてきた。こういった中で令和 4 年度以降は、奉納の断念ないし縮小を表明、もしくは明言する山車行事が続出しているという極めて厳しい現実が存在する。現在辛うじて開催されている古来よりの形態が、いつまで健全な形で行えるのか、もしくはその先に山車行事全体がどうあるべきなのかを議論すべきフェーズに入ったと言える。そういった意味でも、文化圏全体を網羅し考察するための調査ができるのは現時点がラストチャンスである可能性が高く、そういった中で山車行事を行う「意味」と、今後どうあるべきなのかを考える「未来」の二点に論点を絞り、岩手県内の事例を中心として全てを取り上げた上で考察する。